

平成23年度 第3回日本粘土学会評議員会議事録

日 時：平成23年7月16日(土) 15:00~17:00

場 所：早稲田大学理工学キャンパス S55 407室

出席者（順不同，敬称略）

井上，成田，山田，八田，伊藤，上原(元)，
 蛭名，太田，岡田，河野，佐藤(努)，佐藤(久)，
 篠原，鈴木(正)，高木，田村，西浜，日比野，
 宮脇，山崎，横山，土信田，地下（記）

1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集状況(篠原)：第49巻3号までの発行報告ならびに50巻1号発行予定(2011年8月)が報告された(別紙)。また，粘土科学への論文の投稿依頼がなされた。
- (2) Clay Science の発行・編集状況(八田(代理)・井上)：Vol.15 No.1（北川隆司会員追悼集となった特別号）の発行報告ならびに Vol.15 No.2以降について，編集状況を含め報告があった（別紙）。
- (3) 会計 中間報告(土信田・八田)：収支・支出状況(別紙)の報告がなされた。また，8月30日に会計監査が行われることが説明された。
- (4) 行事(河野)：第55回粘土科学討論会開催に関して，登録者・懇親会参加者・見学会参加者数ならびに予算案の報告がなされた(別紙)。また，講演要旨の受付状況についても報告があった。
- (5) 国際協力
 - ①第2回 Asian Clay (佐藤)：2011年5月に韓国にて，2012年度開催予定の Asian Clay の日程，会費，運営方法についての打ち合わせに関して報告がなされた。今後の広報活動は，各国のコンタクトパーソンより情報が共有されることも説明があった。
 - ② EUROCLAY 2011 (山田)：2011年6月26日～7月1日に開催された EUROCLAY の参加報告が行われた。また，本会において石田会員(首都大学東京)の2件の受賞が紹介された。詳細については粘土科学に参加記として報告される。
- (6) 企画
 - ①標準粘土(宮脇)：第1回委員会以降10件の依頼があったことが報告された。
 - ②シンポジウム(田村)：報告事項は特になし
 - ③ホームページ(岡田)：2012年3月に現在使用している学会ホームページのサーバーである国立情報学研究所の学協会情報発信サービスにおけるホームページ構築・提供支援が終了するため，サーバーの移設に関して検討中である事が報告された。
- (7) 庶務 会員動向(山崎)：会員の動向に関して報告があった(別紙)。
- (8) 連合等(井上)：2011年5月25日に行われた日本地球惑星科学連合 第4回日本学術協会会議の報告があった。地球惑星科学を取り巻く情勢，学術会議の

近況，東日本大震災の連合声明に関する会議内容であり，連合声明に関しては日本粘土学会も賛成とした経緯説明がなされた。

- (9) 事務局(土信田)：協賛7件について報告があった(別紙)。
- (10) その他：特になし

2. 審議事項

- (1・2) 第55回粘土科学討論会についておよびプログラムについて：河野委員よりプログラム・座長・会期中の飲み物サービス等について，田村委員よりシンポジウムについて，鈴木委員より提案型セッションについて説明があり，以下の点が審議され，承認された(別紙)。
 - ・討論会の日程に関しては，ポスターコアタイムや提案型セッションの発表日程に関して審議された結果，別紙のとおり決定した。提案型セッションの発表形態・日程に関しては，次回以降の討論会にて検討することとなった。
 - ・共催学協会所属の学生の取り扱いに関して，受付時に申告のあった学生に対しては本学会学生と同じ会費とし，第55回粘土科学討論会プログラムに正会員同様に登録料に関する事項を記載することとなった。
 - ・総会の委任状に関して，従来どおり委任状をプログラム掲載時に添付し，討論会受付当日も受付にて配布することが決定した。
- (3) 第56回粘土科学討論会について：佐藤委員より第2回 Asian Clay と第56回粘土科学討論会の同時開催について説明がなされ，以下のことが審議され承認された。
 - ・第56回粘土科学討論会の開催に関しては，国内では開かず第2回 Asian Clay と同時開催する。
 - ・優秀講演賞に関して，対象者・副賞・人数等について審議の結果，国内外を問わず，35歳以下の若手の全発表者に対して，副賞をつけるということで，開催国の韓国側に提案する。
 - ・学術振興基金賞の受賞者人数の増員について，基金賞の金額・人数等が審議された結果，総予算を決定後増員することが決定された。総予算は，算出後次回委員会に提案することとなった。
- (4) 名誉会員の推薦について：渡邊 隆会員，中澤弘基会員の推薦が承認され，総会に附議されることとなった(別紙)。
- (5) 平成23年度日本粘土学会学術振興基金賞選考結果に関して：成田委員(渡村委員の代理)より選考結果(別紙)が報告され，以下の3名(氏名・所属・参加学会)について承認された。
 - 西岡幸泰・山口大学・EUROCLAY 2011, 菅 大輔・岩手大学・EUROCLAY 2011, 藤村 卓也・首都大学東京・Nanoporous Materials-VI

- (6) 法人化について：八田常務委員長より本学会の法人化に関して、現状が説明され、他の小・中規模学協会の動向に注意しながら、対応することとなった。

3. 協議事項

- (1) 平成23年度日本粘土学会学会賞選考結果（別紙）に関して：成田委員より学会賞の選考に関して報告がなされ、以下の受賞者が承認された。
学会賞：山田裕久会員，功績賞：推薦者なし，奨励賞：伊藤弘志会員，林 亜紀会員，技術賞：後内貴胤会員，論文賞については各編集委員会に選考対象論文の推薦を依頼中。
- (2) Clay Science 印刷所に関して，八田常務委員長より説明がなされ，今後の交渉が決定された。

以上

平成23年度 第4回日本粘土学会常務委員会議事録

日 時：平成23年9月13日(火) 15:00~17:00

場 所：鹿児島大学郡元キャンパス共通教育棟3号館
322号講義室

出席者（順不同，敬称略）

井上，山田，八田，上原，岡田，河野，佐藤（努），佐藤（久），篠原，鈴木（正），高木，田村，日比野，宮脇，山崎，土信田，地下（記）

1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集（篠原）：第49巻ならびに第50巻の発行報告ならびに発行予定に関して報告があった（別紙）。
- (2) Clay Science の発行・編集状況（上原）：Vol.14およびVol.15の発行報告ならびに今後の発行予定に関して報告が行われた（別紙）。また，編集委員会に関して，Clay Science の ISSN 取得をめざすにあたり，編集委員への海外会員の推薦依頼がなされた。
- (3) 会計（土信田）：平成23年度の収入・支出状況（別紙）の報告がなされた。
- (4) 行事（河野）：第55回粘土科学討論会開催に関して，登録者・懇親会参加者・見学会参加者数ならびに予算案の報告がなされた（別紙）。
- (5) 国際協力
- ① 第2回 Asian Clay（佐藤（努））：2012年度開催予定の Asian Clay の日程（2012年9月上旬の2日間を会議・1日を巡検とする・アブストラクト提出は4月を予定），会費，運営方法についての打ち合わせに関して報告がなされた。
- ② AIPEA（佐藤（努））：ニュースレターに第54回粘土科学討論会などの日本粘土学会の記事が掲載されていること，また AIPEA のホームページに日本粘土学会のホームページのリンクができていたことが報告された。

(6) 企画

- ① 標準粘土（宮脇）：標準粘土の依頼状況について報告があった。
- ② シンポジウム（田村）：第55回粘土科学討論会のシンポジウムならびに提案型セッションが予定通り開催されることが報告された。
- ③ ホームページ（岡田）：特になし
- (7) 庶務：会員の動向（山崎）：前委員会以降ならびに昨年度全般の会員の動向に関して報告があった（別紙）。
- (8) 連合等（山崎）：特になし
- (9) 事務局（土信田）：協賛・共催に関して，昨年度一年の状況について報告があった（別紙）。
- (10) その他
- ① 井上会長より，北川先生追悼集特別号を北川先生の親族への献本に関して報告がなされた。

2. 審議事項

- (1) 平成23年度決算及び会計監査について
八田常務委員長より8月末に行われた会計監査に関して説明があり（別紙），説明どおりに承認された。
- (2) 平成24年度予算案について
八田常務委員長より平成24年度の予算案についての説明がなされ（別紙），予算案どおりに承認された。ただし，次年度以降の学会予算の情勢の厳しさについて議論がなされ，対策案を考案することを第55回粘土科学討論会での総会にて井上会長から会員に説明することとなった。
- (3) 総会の議事次第について
八田常務委員長より総会での議事次第について説明がなされた。次第の部分修正が行われ，承認された（別紙）。
- (4) 法人化について
八田常務委員長より本学会の法人化について説明がなされた（別紙）。
- (5) その他
岡田委員より，本学会 Web サイトのサーバー移行について説明がなされ（別紙），移行に関する検討案を評議員会にて審議することが承認された。

3. 協議事項

- (1) 平成23年度日本粘土学会論文賞について
八田常務委員長（代理）より平成23年度日本粘土学会論文賞について，選考結果の説明がなされた（別紙）。以下の受賞者が承認された。
粘土科学：山川洋亮ほか「亜臨界水処理による石炭灰由来 Na-P 1 型ゼオライトの転換及び表面改質」
Clay Science：A.Inoue「Shape transformation of halloysite particles」
また，学会誌の論文数が増えているため，次回以降の各論文賞の個数等（現在各誌より1編）の見直